



外部被ばくでは、透過力の弱い α (アルファ)線は表皮で止まってしまうので影響を及ぼすことはありませんが、 β (ベータ)線を出す放射性物質が大量に体表面に付着し、長く放置された場合には、皮膚の放射線感受性の高い基底細胞や毛根細胞に影響を及ぼし、皮膚が赤色に変化する皮膚紅斑や脱毛等が起こることがあります。しかし、こうした被ばくは大変まれで、外部被ばくで問題になるのは、体の内部まで影響を及ぼす、 γ (ガンマ)線を出す放射性物質によるものです(ただし、眼の水晶体は、被ばく状況によっては β 線の被ばくに留意する必要があります)。

(関連ページ：上巻P21「放射線の体内での透過力」、上巻P22「透過力と人体での影響範囲」)

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2026年3月31日